

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

[めざす学校像]

- 1 理想の学校づくりについて考え続ける生徒を育てる学校 (教育文理学科において求める探究の姿勢)
- 2 3校(南・西・扇町総合)の良き伝統文化を継承する学校 (生徒会活動を中心に3校が積み重ねてきた豊かで尊い実績を継承)
- 3 4校それぞれの個性・力を集めてパワーアップする学校 (4校の教育課程及び教員の取組が生み出す相乗効果)

2 中期的目標

- 1 「心身の健康と安全を自他ともに保持増進する力」の育成
 - (1) 心身の健康と安全確保について生徒が自分自身だけでなく他者に対しても説明したり働きかけたりすることができるようになるための教育の推進
 - (2) 中退防止・不登校・進路選択の不安など高校生活における課題に対する取組の充実
 - ※ 生徒向け学校教育自己診断における「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」の肯定的回答率を令和6年度には80%以上にする。(新設校のため実績なし。以下同じ。)
- 2 「視野を広げ課題を発見し科学的にアプローチすることで解決につなげる力」の育成
 - (1) 主体的・対話的な授業づくりを学校全体で推進し、学校設定科目「教育探究」の充実とともに、各教科科目において探究的な学びを生み出す授業を工夫することで、科学的手法の習得と学ぶ意欲を高める学習へと発展させる。
 - ※ 生徒向け学校教育自己診断における「授業を受けて、学習意欲が高まった」の肯定的回答率を令和6年度には80%以上にする。
 - (2) 高大連携行事を充実させることでキャリア教育の充実を図り、将来の目標に向かって主体的かつ積極的に行動する力を育成する。
 - ※ 生徒の希望する進路の実現率を令和6年度に80%以上にする。
 - (3) 学校図書館をはじめとする情報資産を活用して、視野を広げ自らの生き方を考えさせるキャリア教育を推進することで学習意欲の向上を図る。
 - ※ 生徒向け学校教育自己診断における「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の肯定的回答率を令和6年度には80%以上にする。
 - (4) 地域に開かれた学校づくりの推進並びに北区を中心とした近隣校との異校種間連携を充実させる。
- 3 「高いコミュニケーション能力、情報活用能力を身につけることで、人権を尊重し相互理解に努める力」の育成
 - (1) コミュニケーション能力、情報活用能力、課題解決能力、未来を切り拓く創造力並びに情報リテラシーを教科横断的な視点に基づき育成する。
 - ※ 生徒向け学校教育自己診断における「教え方に工夫をしている先生が多い。」の肯定的回答率を令和6年度には80%以上にする。
 - (2) 体験活動や地域連携等における活動を通して人や社会とのつながりを考察させることで、他者とよりよく生きるための態度を養う。
 - ※ 生徒向け学校教育自己診断における「授業や部活動などで、保護者や地域の人々とかかわる機会がある。」の肯定的回答率を令和6年度には80%以上にする。
 - (3) 学校行事、部活動等を通して、自己の可能性を伸ばし、よりよく社会に参画する態度を養う。
 - ア 生徒が主体的に学校行事等に関与できるよう4校での生徒会活動を活性化させる。
 - ※ 生徒向け学校教育自己診断における「生徒会活動は、活発である。」の肯定的回答率を令和6年度には80%以上にする。
 - イ 人権尊重の学校づくりを進めるため、人権教育及び人権啓発に関する正しい理解を深めるとともに、いじめを無くす取組を支援する。
- 4 「チーム桜和」を支える教員力の向上
 - (1) 学校保健委員会、安全衛生委員会を活性化するとともに、「大阪府部活動の在り方に関する方針」・「府立学校における働き方改革に係る取組みについて」等を踏まえた生徒・教職員の健康管理体制の充実
 - ※ 教職員の年間1人当たりの平均時間外在校時間を令和6年度に360時間以内にするをめざす。
 - (2) 教育界をはじめ社会をリードし、次世代を支える担い手をチームで育てる自覚と態度の醸成を図るスクール・ミッション、スクール・ポリシーの策定
 - (3) 大阪教育大学と教育委員会との連携協力に関する協定書に則り、大阪教育大学と連携して教育文理学科の特色を最大限発揮するための実践研究の推進
 - (4) 新型コロナウイルス感染症拡大時等においても、生徒が体系的・計画的に学習をすすめていけるようICTの活用を充実させる環境づくり
 - (5) 教育センターの研修等を活用し、ICT等を活用した校務の効率化により、教職員の事務作業に係る時間軽減及び生徒と向き合う時間の拡充
 - ※ 教職員向け学校教育自己診断における「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている。」の肯定的回答率を令和6年度には75%以上にする。
 - (6) 学校の特色について、教職員間における共通認識に基づく広報活動の充実を図るとともに、保護者や地域等との連携を推進する。
 - ※ 教職員向け学校教育自己診断における「情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている。」の肯定的回答率を毎年度3%ずつ引き上げ、令和6年度には75%以上にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
1. 「心身の健康と安全を自他ともに保持増進する力」の育成 ※「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」(生徒 R4 81%,R5 90%) ※「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」(生徒 R4 81%,R5 86%) ※「先生は、日常生活や家庭生活について私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」(生徒 R4 87%,R5 86%) ※「子どもに生命を大切に心や社会ルールを守る態度を養おうとしている。」(保護者 R5 86%) 【分析】 「学校へ行くのが楽しい(楽しみにしている)」が(生徒 86%,保護者 85%)ともに80%を超えていることから、学校生活への満足度は非常に高いと考える。また、人権感覚を養い、命の大切さや社会のルールについて考える機会は2年続けて高い数値であることから引き続き、この状態を維持していきたい。また、安心安全な学校づくりにむけて、教員—生徒間での雰囲気作りができてきているので、次年度も継続していきたい。	南・西・扇町総合高校は再編により桜和高校と併置されていることから、学校運営協議会は桜和高校と同一。 第1回(6月26日) ○R5年度学校経営計画について ・教育現場の多忙化による教員志望者減にどう対応していくかが課題であり、働き方改革を進めて魅力ある職場環境を整えていくことが重要ではないか。働き方改革を実行するには雰囲気づくりが大事なので、誰かがリーダーシップをとってやっていけばやりやすいと思う。そのために職員会議の日を一斉退庁日にするなどの工夫によってノー残業デー等の実施は可能である。また、業務の効率化をはかることにより教材研究や生徒に向き合う時間ができ、それが結果的に生徒のためになっていくのではないだろうか。 ・クラブによる長時間労働の是正が急務である一方で、クラブ顧問をしたい先生のモチベーションをどうしていくかが今後の課題である。

府立桜和高等学校

<p>2. 「視野を広げ課題を発見し科学的にアプローチすることで解決につなげる力」の育成 ※「授業はわかりやすく楽しく、学習意欲が高まった」(生徒 R4 76%、R5 83%) ※「教室・特別教室・運動場などは、授業や生活がしやすいように整備されている」(生徒 R4 90%、R5 90%) 【分析】 授業がわかりやすいと感じる生徒が前年度より増え、学習意欲向上につながった。授業環境が整備されているという評価が高いことも要因であると考え。また、「進路についての情報を知らせてくれ、きめ細やかな進路指導 (R5 84%)」や「将来の進路や生き方について考える機会がある。」(生徒 R4 92%、R5 88%) において、いずれも高い数値であることから、引き続きこの状態を維持し、生徒の進路実現へと結び付けていきたい。 しかし、保護者における「宿題等の家庭学習の習慣がついている」が56%であったことから、家庭学習へとつなげていくアプローチが今後の課題である。</p> <p>3. 「高いコミュニケーション能力、情報活用能力を身につけることで、人権を尊重し相互理解に努める力」の育成 ※「教え方に工夫をしている先生が多い。」(生徒 R4 86% R5 83%) ※「少人数指導や参加体験型の学習を取り入れるなど、指導方法の工夫・改善に努めている」(教員 R5 100%) ※「学校内で他の教員の授業を見学する機会があり、教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。(教員 R5 98%) ※「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」(生徒 R4 95% R5 98%) ※「授業や部活動などで、保護者や地域の人々とかかわる機会がある。」(生徒 R4 62% R5 63%) ※「生徒会活動は、活発である。」(生徒 R4 81% R5 79%) 【分析】 指導方法への工夫・改善の意識が教員間で高く、相互授業見学等を通じて、積極的な交流が行われており、そのことが生徒の評価にも表れている。また、「授業を通じてコミュニケーション能力が身についた」(生徒 R5 93%) の数値が高いことから、本校の育成したい能力に向けて結果が出ており、引き続き本校の掲げる能力育成に向けた授業を実施していく。 しかし、授業や部活動などで、保護者や地域と関わる機会が少なかったという結果が出ていることから、今後積極的な情報発信と交流を図る必要がある。</p> <p>4. 「チーム桜和」を支える教員力の向上 ※「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている。」(教員 R4 87% R5 90%) ※「近隣の学校などとの校種間連携の機会を設け、教育活動全般に生かしている。」(教員 R5 95%) ※「情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている。」(教員 R4 100% R5 100%) ※「学校は、生徒が外部や他の学校と交流する機会を設けている。」(保護者 R5 82%) 【分析】 大阪教育大学をはじめ、連携校との出前講座は11件あり、連携大学(四天王寺大学)を会場としたイベント「探究 EXPO」を実施し、近隣の高校・大学との交流を行うことができた。また、「教育ボランティア」等でも小・中学校や教育施設と連携をおこなったことが、保護者等への一定の評価につながったと考える。しかし、「情報提供の手段としてホームページを活用している」が教員100%に対して、保護者の「ホームページをよく見る」が61%であることから、保護者への認知が低いことが考えられる。今後も様々なツールを活用して保護者に情報を提供していきたい。</p>	<p>・桜和2年の「教育ボランティア」の進捗状況はどうなっているのか。部活動に対するボランティアも重要であるが、どうしても夏季休業中に限定されてしまう。中学校としては運動会や文化祭の受付など様々な行事に参加してもらとうとありがたい。</p> <p>第2回(11月20日) ・扇町総合高校の新聞探究という授業は大変すばらしい取り組みである。ネット社会において広域的に情報を得るという点で、新聞は優れている。新聞を読むきっかけにもなり、いい経験をさせていただいた。学校教育自己診断アンケート等を通じて、子どもと話す機会ができてありがたい。 ・南高校の英語探究科としての成果を見る場をつくっていただけないか。 ・桜和高校の教育探究で作成した「探究MAP」を見たい。 ・STEAM教育はこれからの教育で大切になってくる視点なので、遊びの部分の大切に組み込んでほしい。校則を決めていくということに関しても、マイノリティやユニバーサルな視点を大切に組み込んでほしい。 ・STEAM教育の取り組みが委員会から降りてきているが、実際のところ困っている部分がある。どのように取り組んでいるか聞きたい。校則等のルールの見直しをしたことがあるが、生徒は固く考えがちなので、ルールは分かりやすくするのがよい。教育ボランティアの授業の一環で本校(北稜中学校)に来てくれた。部活動や文化祭の受付などをしてくれたが、インターンシップのように1日学校にいたほうが、学校のことがよりわかるのではないかなと思う。</p> <p>第3回(2月20日)</p>
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R4年度値]	自己評価
1 心身の健康と安全を保持増進する力の育成	(1) 心身の健康と安全確保について生徒が自分自身だけでなく他者に対しても説明したり働きかけたりすることができるようになるための指導の充実	(1) ・保健体育科、家庭科での衛生管理や救命救急に関する指導のため、校内において救命講習用人体形やAEDトレーナーを常備し、教員研修及び教育課程外での生徒指導の機会を設けて、生徒に知識とスキルを身につけさせる。 ・薬物乱用防止教室、交通安全教育等に広い視点で取組み、生徒の知識とスキルを高めるため、外部講師を招く講演会を計画的に実施する。 ・18歳成人を踏まえ、公民科や家庭科における消費者・主権者教育の推進を図るため、外部講師を招く講演会を計画的に実施する。 ・スクールソーシャルワーカーとの連携によりヤングケアラーへの理解を深め、生徒の知識を高めるための教員研修を実施する。	(1) ・救命救急講習会を校内において2回実施する。[R4 2回実施] ・警察や外部機関から講師を招き、講演会を年1回以上実施する。[R4 1回実施] ・消費者や主権者教育推進のために外部講師を招き講演会を年1回以上開催する。[R4 1回実施] ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、ヤングケアラーへの理解を深めるための教職員研修会を年1回以上実施する。[R4 1回実施]	(1) ・教職員対象の危機管理研修会を実施し、救命アクションカードを活用した訓練を通して、組織的に迅速な対応の手順を確認した。また、部活動入部生徒を対象に救命救急講習会を実施し、実践的な心肺蘇生法の確認を行った。○ ・天満警察署から講師を招き、1学期終業式にて交通安全講話を実施した。○ ・地歴公民科や家庭科において消費者教育、主権者教育推進のための学習に取り組んだものの、外部講師を招いての講演会を実施することはできなかった△ ・スクールカウンセラーと連携して年2回の連絡会を実施し、情報共有をすることができた。また、スクールカウンセラーを講師として教職員研修会を実施することができた。○

府立桜和高等学校

	(2) 高校生活における課題に対する取組の充実	(2) 中退・不登校・進路選択の不安・高校生活に関する諸課題について、スクールカウンセラーと連携しながら、定例の検討会を開催する。	(2) 生徒向け学校教育自己診断における「悩みや相談に親身になってくれる先生が多い。」の肯定的回答率80%以上を維持する。(生徒 R4 81%)	(2) 生徒支援委員会を開催し、学校全体で生徒対応ができるよう環境づくりをすることができた。○(R5 86%)
2 解決につながる力の育成	(1) 探究的な学びによる科学的手法の習得と学ぶ意欲を高める学習	(1) 学校設定科目「教育探究」等における学びを通して、他者とのかかわりについての考察を深めるためのツールとなる科学的手法の使い方を教える。	(1) 生徒向け学校教育自己診断における「教え方に工夫をしている先生が多い。」の肯定的回答率80%以上を維持する。(生徒 R4 86%)	(1) 教育探究においてブレインストーミング等の手法を学び、対話や協働・体験を通して学ぶ機会を多く問い入れ、単元ごとにプレゼンテーションを実施した。 ・「教え方に工夫をしている先生が多く、学習意欲が高まった。」の肯定的回答が目標を上回った。(生徒 R5 83%)○
	(2) 高大連携行事の充実によるキャリア教育の推進	(2) 将来の目標に向かって主体的・積極的に行動する力を育成するキャリア教育の推進のため大学訪問を行い、高大連携先を開拓する。	(2) 生徒向け学校教育自己診断における「授業では、実験・観察・実習をしたり、学校外へ見学に行く機会がよくある。」の肯定的回答率を70%以上にする。(生徒 R4 64%)	(2) 教育系学部を有する畿央大学と連携協定を締結した。(9月20日) ・「授業では、実験・観察・実習をしたり、学校外へ見学に行く機会がよくある。」の肯定的回答がほぼ目標を達成した。(生徒 R5 69%)○ ・「高大連携事業や外部との交流が、自分の知識を広げ、進路選択に役立っていると感じる。」(生徒 R5 79%)
	(3) 学校図書館の活用	(3) 学校図書館等の情報資産を活用し、視野を広げ自己の生き方を考察させ、学習意欲の向上を図るため、学校図書館の教育環境を整備する。	(3) 生徒向け学校教育自己診断における「教室・特別教室・運動場などは、授業や生活がしやすいように整備されている。」の肯定的回答率90%以上を維持する。(生徒 R4 90%)	(3) 教育探究では、ビブリオバトルに取り組み、本に対する興味関心を引き出すとともに、学校図書館が活用しやすいよう、図書館通信や推薦図書ディスプレイなど生徒図書委員と図書館の活性化に努めた。 ・「教室・特別教室・運動場などは、授業や生活がしやすいように整備されている。」の肯定的回答が目標を達成した。(生徒 R5 90%)○
	(4) 令和5年度の「教育に関する専門科目」の授業における教育関係の仕事の理解を深める職場体験等実施・推進のため、北区を中心とした近隣校との異校種間連携の充実	(4) 生徒が北区の大阪市立の幼稚園(3園)・小学校(11校)・中学校(5校)との異校種間連携を進めるため学校訪問を行い、令和5年度の教育関連施設での職場体験先を開拓する。また、令和6年度「教育体験」実施校との連携を進める。	(4) 生徒向け学校教育自己診断において「授業や部活動、学校行事などを通して、ほかの学校や幼稚園・保育園などと交流することがある。」の肯定的回答率を70%以上にする。(生徒 R4 55%)	(4) ・「授業や部活動、学校行事などを通して、他の学校や幼稚園、教育関連施設等と交流することがある。」の肯定的回答が目標を上回った。(生徒 R5 77%)○ ・近隣との異校種間連携を積極的にを行い「教育ボランティア」において小中学校・教育関連施設と連携することができた。また、1月に小中高が連携をして「能登半島地震災害義援金」募金活動を天神橋筋商店街にて実施し、さらなる連携を深めた。
3 人権尊重・相互理解に努める力の育成	(1) 教科横断的な視点に基づくコミュニケーション能力、情報活用能力等の育成	(1) 教科横断的な視点に基づくコミュニケーション能力等の育成を図るため、教科主任会等において生徒の主体的活動に関する成功事例の情報を共有する。	(1) 生徒向け学校教育自己診断において「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」の肯定的回答率80%以上を維持する。(生徒 R4 95%)	(1) steAm社と連携のもと、教育探究Ⅱにおいて「STEAM教育」を実践し、多角的・横断的な視点に基づく授業を実施した。 ・「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定的回答が目標を大きく上回った。(生徒 R5 98%)◎ ・「教育活動を通じて、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が身についた。」の肯定的回答が93%であったことから、コミュニケーション能力や情報活用能力が育っている。 ・有志によるsteAm社主催の「万博ごみ祭り」や「花園EXPO」に参加し、外部団体との積極的な交流を図ることができた。
	(2) 他者よりよくつながる態度を養う	(2) 人や社会とのつながりについて考察を深めさせ、自他の存在の価値に気づかせるため、体験活動や地域とかかわる機会を全教職員で探し設定する。	(2) 生徒向け学校教育自己診断における「授業や部活動などで、保護者や地域の人々とかかわる機会がある。」の肯定的回答率を70%以上にする。(生徒 R4 62%)	(2) 「授業や部活動などで、保護者や地域の人々と関わる機会がある。」の肯定的回答が目標を下回った。(生徒 R5 63%)○ 授業参観や部活動を通じた地域イベントを多数実施するも、低い認識となった。一部の部活だけでなく、学校全体での取り組みや、保護者への情報発信を積極的に行う必要がある。
	(3) よりよく社会に参画する態度を養う	(3) 学校行事に対して、4校の生徒が主体的に関与したり、部活動に意欲をもって取り組めたりする環境づくりを推進するため、学校行事の合同実施等、生徒会に4校合同の機会を創出させる。	(3) 生徒向け学校教育自己診断における「生徒会活動は活発である。」の肯定的回答率80%以上を維持する。(生徒 R4 81%)	(3) 「生徒会活動は、活発である。」の肯定的目標はほぼ達成することができた。(生徒 R5 79%)○

府立桜和高等学校

4 チ ー ム 桜 和 高 校 を 支 え る 教 員 力 の 向 上	<p>(1) 生徒・教職員の健康管理体制の充実</p> <p>(2) スクール・ミッション、スクール・ポリシーの策定</p> <p>(3) 大阪教育大学と連携して教育文理学科の特色を最大限発揮するための実践研究の推進</p> <p>(4) ICTの活用を充実させる環境づくり</p> <p>(5) ICT等を活用した校務の効率化</p> <p>(6) 広報活動の充実、保護者や地域等との連携を推進する</p>	<p>(1) 学校保健委員会、安全衛生委員会の活性化を図り、生徒・教職員の自他ともに健康への配慮ができる態度を育てる。</p> <p>(2) スクール・ミッションとそれに基づくスクール・ポリシーの策定に向けた検討を進めるため、特別委員会を設置する。</p> <p>(3) 「教育探究」の授業実践の結果から、よりよい授業に向けた方法を考察する教職員研修を外部の支援を得て実施するとともに、令和5年度以降の教育に関する科目「教育入門」「教育体験」等の教育計画を作成する。</p> <p>(4) 教職員ICT委員会、生徒ICT委員会を設置し、通信環境の整備と1人1台端末の効果的な使用方法の共有を図る。</p> <p>(5) 教育センターの研修等の活用、教材等のコンテンツや進路情報の共有を進め、業務の効率化を図るための情報環境を整備する。</p> <p>(6) 学校説明会や学校HP等を通じて、中学生やその保護者、地域に積極的に情報発信を行う。</p>	<p>(1) 学校保健委員会を学期ごとに計3回開催する。(R4 3回) 教職員の年間1人当たりの平均時間外在籍時間を400時間以内にするをめざす。(R4 459時間)</p> <p>(2) 教職員向け学校教育自己診断の「校長は自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている。」の肯定的回答率90%以上を維持する。(教職員 R4 96%)</p> <p>(3) 教職員向け学校教育自己診断の「生徒の実態をふまえ、参加体験型の学習を行うなど、指導方法の工夫・改善を行っている。」の肯定的回答率90%以上を維持する。(教職員 R4 100%)</p> <p>(4) ICT委員会(生徒・教職員)によるICT活用研修を3回以上実施する。生徒向け学校教育自己診断における「学校は1人1台端末を効果的に活用している。」の肯定的回答率90%以上を維持する。(生徒 R4 94%) 教職員向け学校教育自己診断における「コンピューター等のICT機器が、授業などで活用されている。」の肯定的回答率90%以上を維持する。(教職員 R4 100%)</p> <p>(5) 教職員向け学校教育自己診断における「この学校では、府教育センター等が主催する研修に計画的に参加する体制が整っている。」の肯定的回答率80%以上を維持する。(教職員 R4 87%)</p> <p>(6) 学校説明会を年5回以上、学校HPの更新回数を300回以上とする。 教職員向け学校教育自己診断における「情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている。」の肯定的回答率90%以上を維持する。(教職員 R4 100%) 長期休業中に地域の小学生を対象とした学校開放日を設ける。</p>	<p>(1) ・学校保健委員会は3学期に1回実施し、生徒による調査発表を行った。また、アレルギー対応委員会を2学期に1回実施、安全衛生委員会は毎月実施することができた。○ ・設備美化委員会の活動も前期9回、後期:9回実施し、校内の美化ならびに掃除への啓発活動をさかんにおこなった。 ・教職員の平均時間外在籍時間36.52時間 ・働き方改革の一環として、フィットネス講習会を外部講師を招聘して、毎月実施し(計7回)、自他の健康管理とパフォーマンス向上、部活動間の交流を進めた。</p> <p>(2) 「校長は自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている。」の肯定的回答が目標を大きく上回った。(教職員 R5 100%)◎</p> <p>(3) 「生徒の実態をふまえ、参加体験型の学習を行うなど、指導方法の工夫・改善を行っている。」の肯定的回答が目標を大きく上回った。(教職員 R5 100%)◎</p> <p>(4) 生徒ICT委員会を4回実施し、教員ICT委員会を1回実施、また適宜オンラインにて意見交換、教員対象ICT活用研修会を1回実施した。 ・「学校は1人1台端末を効果的に活用している。」の肯定的回答が目標を達成した。(R5 95%)○ ・「コンピューター等のICT機器が、授業などで活用されている。」の肯定的回答が目標を大きく上回った。(教職員 R5 100%)◎</p> <p>(5) 「この学校では、府教育センター等が主催する研修に計画的に参加する体制が整っている。」肯定的回答が目標を達成した。(教職員 R5 80%)○</p> <p>(6) 各区等の学校説明会に計20回参加、中学校への出前授業を14回実施し、中学生の本校への訪問には4件対応し、中学生におけるキャリア教育へ貢献した。また学校HPは450件の更新(2月現在)を行い、保護者・地域社会への積極的な情報提供を行うことができた。 「情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている。」の肯定的回答が目標を大きく上回った。(教職員 R5 100%)◎ ・北稜中学校の部活動(テニス部、野球部、サッカー部)に対し、本校グラウンドの提供を2学期～3学期にかけて複数回行った。○</p>
--	--	--	--	---

府立桜和高等学校

4 チ ー ム 桜 和 高 校 を 支 え る 教 員 力 の 向 上	(1) 生徒・教職員の健康管理 体制の充実	(1) 学校保健委員会、安全衛生委員会の活性化を図り、 生徒・教職員の自他ともに健康への配慮ができる態 度を育てる。	(1) 学校保健委員会を学期ごとに計3回開催する。 (R4 3回) 教職員の年間1人当たりの平均時間外在時間 を400時間以内にするをめざす。(R4 459 時間)	(1) ・学校保健委員会は3学期に1回実施し、生徒 による調査発表を行った。また、アレルギー 一対一委員会を2学期に1回実施、安全衛生委 員会は毎月実施することができた。○ ・設備美化委員会の活動も前期9回、後期:9回 実施し、校内の美化ならびに掃除への啓発活 動をさかんにおこなった。 ・教職員の平均時間外在時間36. 52時間 ・働き方改革の一環として、フィットネス講習会 を外部講師を招聘して、毎月実施し(計7回)、 自他の健康管理とパフォーマンス向上、部活動 間の交流を進めた。
	(2) スクール・ミッション、スク ール・ポリシーの策定	(2) スクール・ミッションとそれに基づくスクール・ポリシー の策定に向けた検討を進めるため、特別委員会を設置する。	(2) 教職員向け学校教育自己診断の「校長は自ら の教育理念や学校運営についての考え方を明 らかにしている。」の肯定的回答率90%以上を 維持する。(教職員 R4 96%)	(2) 「校長は自らの教育理念や学校運営について の考え方を明らかにしている。」の肯定的回答 が目標を大きく上回った。(教職員 R5 100%)◎
	(3) 大阪教育大学と連携して 教育文理学科の特色を最 大限発揮するための実践 研究の推進	(3) 「教育探究」の授業実践の結果から、よりよい授業に 向けた方法を考察する教職員研修を外部の支援を 得て実施するとともに、令和5年度以降の教育に関す る科目「教育入門」「教育体験」等の教育計画を作成 する。	(3) 教職員向け学校教育自己診断の「生徒の実態 をふまえ、参加体験型の学習を行うなど、指導 方法の工夫・改善を行っている。」の肯定的回 答率90%以上を維持する。(教職員 R4 100%)	(3) 「生徒の実態をふまえ、参加体験型の学習を行 うなど、指導方法の工夫・改善を行っている。」 の肯定的回答が目標を大きく上回った。(教職 員 R5 100%)◎
	(4) ICTの活用を充実させる環 境づくり	(4) 教職員ICT委員会、生徒ICT委員会を設置し、通信 環境の整備と1人1台端末の効果的な使用方法の共 有を図る。	(4) ICT委員会(生徒・教職員)によるICT活用研修 を3回以上実施する。生徒向け学校教育自己診 断における「学校は1人1台端末を効果的に活 用している。」の肯定的回答率90%以上を維持 する。(生徒 R4 94%) 教職員向け学校教育自己診断における「コンピ ューター等のICT機器が、授業などで活用され ている。」の肯定的回答率90%以上を維持す る。(教職員 R4 100%)	(4) 生徒ICT委員会を4回実施し、教員ICT委員会 を1回実施、また適宜オンラインにて意見交換、 教員対象ICT活用研修会を1回実施した。 ・「学校は1人1台端末を効果的に活用してい る。」の肯定的回答が目標を達成した。(R5 95%)○ ・「コンピューター等のICT機器が、授業などで 活用されている。」の肯定的回答が目標を大き く上回った。(教職員 R5 100%)◎
	(5) ICT等を活用した校務の 効率化	(5) 教育センターの研修等の活用、教材等のコンテンツ や進路情報の共有を進め、業務の効率化を図るため の情報環境を整備する。	(5) 教職員向け学校教育自己診断における「この学 校では、府教育センター等が主催する研修に計 画的に参加する体制が整っている。」の肯定的 回答率80%以上を維持する。(教職員 R4 87%)	(5) 「この学校では、府教育センター等が主催する 研修に計画的に参加する体制が整っている。」 肯定的回答が目標を達成した。(教職員 R5 80%)○
	(6) 広報活動の充実、保護者 や地域等との連携を推進 する	(6) 学校説明会や学校HP等を通じて、中学生やその保 護者、地域に積極的に情報発信を行う。	(6) 学校説明会を年5回以上、学校HPの更新回数 を300回以上とする。 教職員向け学校教育自己診断における「情報 提供の手段として、学校のホームページが活用 されている。」の肯定的回答率90%以上を維持 する。(教職員 R4 100%) 長期休業中に地域の小学生を対象とした学校 開放日を設ける。	(6) 各区等の学校説明会に計20回参加、中学校へ の出前授業を14回実施し、中学生の本校への 訪問には4件対応し、中学生におけるキャリア 教育へ貢献した。また学校HPは450件の更新 (2月現在)を行い、保護者・地域社会への積極 的な情報提供を行うことができた。 「情報提供の手段として、学校のホームページ が活用されている。」の肯定的回答が目標を大 きく上回った。(教職員 R5 100%)◎ ・北稜中学校の部活動(テニス部、野球部、サッ カー部)に対し、本校グラウンドの提供を2学期 ～3学期にかけて複数回行った。○